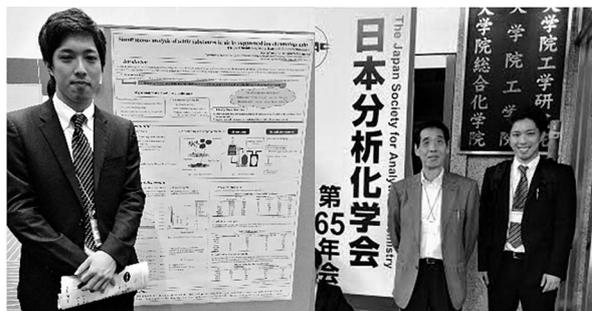




ひよこの感謝と決意

千葉工業大学先進工学部教育センターの谷合哲行先生からバトンをいただきました。日本大学大学院理工学研究科博士課程の南澤宏瑚です。谷合先生は、私が学部の卒業研究、修士の二年間をご指導いただいた分析化学研究室の大先輩です。若手の研究者にバトンを渡したいと、谷合先生からリレーエッセイの執筆のお声を賜り、大変恐縮であり、本当に嬉しい気持ちと同時に大変緊張しております。谷合先生、有難うございます。

大学に入学したときに、様々な飲料水の開発や分析をしてみたいと思い、分析化学研究室を希望して櫻川昭雄先生、吉川賢治先生にご指導いただきました。飲料水の分析ではないのですが、修士課程までは、室内空気中に存在する酸性成分を含む物質がガス状または粒子状であるか存在形態を把握するため、イオンクロマトグラフィーを用いた同時分別捕集の研究に着手し、分析化学の幅広さに直面して、右往左往する毎日でした。そんな中で自分にとって学会や交流会などの様々な行事に参加して刺激を沢山いただいたことが何よりの宝だったような気がします。初めて参加したのは、大学院1年目のときでした。普段はひたすら研究室にこもっており、他大の学生と話す機会などほとんどありません。それに加え、実は当時自分の知識量にまったく自信がなく、そのため、学会のイベントに参加しても、何一つ理解できないのではないか、恥をかくのではないかと、といった無意味な見栄が先立ち、情けない心持で大きく一步を踏み出せないでいました。しかし、日本大学生産工学部の齊藤和憲先生から関東支部若手の会への参加をお声がけいただき、同じく同大学の朝本紘充先生も、ぐずぐずしている自分を広い世界に連れ出してくださいました。思い切って参加してみれば、関東支部の若手の会では、他大にも分析を愛している同世代の学生が沢山いて、自分のちっぽけな殻に閉じこもっている必要などなかったんだと、本当に楽しく勉強をさせていただきました。もし、このエッセイを見て同じように引っ込み思案で躊躇されている学生会員の方がおられたら、ぜひ等身大の自分の姿で飛び込んで、わからないことは先輩や友達に聞



The 8th Asia Pacific Symposium on Ion Analysis 日本分析化学会第65年会
(北海道大学にて)

き喜び、同じような後輩がいれば声をかけていかれればいいと、恥ずかしながら思います。自分は、日本大学の諸先輩の先生方に助けられ、それを糧に他大学の多くの研究者の方々にお声をかけていただき、本当に有難く思い、世界が大きく開けました。分析化学会の関東支部若手の会の先輩方の明るい笑顔とお声がけと、真剣に切磋琢磨する姿に鍛えられたと心から感謝しております。

そして初めて The 8th Asia Pacific Symposium on Ion Analysis, 次いで日本分析化学会第64, 65年会, 分離技術会と研究発表をさせていただき、すべてが勉強になり自分自身で殻を開けられ、同じ目標を持つ友人もたくさんできる機会にも繋がったような気がします。昨年度末には、テキサス大学に海外派遣研究員として赴任されている吉川先生のご厚意でテキサス大学に伺わせていただき、各国の研究者とご一緒に研究生活を過ごされている姿を拝見し、自分も更に大きな一步を踏み出そうと決意いたしました。現在博士課程では、日本大学大学院理工学研究科小嶋芳行先生のご指導を賜り、高純度微細水酸アパタイトを用いた様々な用途開発の研究に没頭しております。分析化学を基礎に幅広い視点で研究を行って参りたいと思います。ひよこですが、分析化学の先輩方、今後共、何卒宜しくお願い致します。次回のエッセイは、日本大学理工学部の吉川賢治先生にお渡しさせていただきます。

〔日本大学大学院理工学研究科 南澤宏瑚〕